

脱炭素×農業WG

2026年2月17日

WG事務局:三菱ケミカル株式会社

脱炭素×農業WGの活動について(1/2)

WG承認年月	2023年9月
参加団体・個人	<p>※敬称略、順不同(2026年1月現在19団体)</p> <ul style="list-style-type: none">● 三菱ケミカル株式会社(幹事会社)● アジア航測株式会社● 応用地質株式会社● 株式会社奥村組● 合同会社オトナリ● 共栄株式会社● 大成建設株式会社● 株式会社ちーの (株式会社バイオマスレジンホールディングス)● 東北交易株式会社● 日本工営エネルギーソリューションズ● フタバ産業株式会社● 三菱重工業株式会社● 一般社団法人えこえね南相馬研究機構● 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構● 大川 泰一郎(東京農工大学)● 米山 昌幸(獨協大学)● 岡野 悠太郎(東北大学)● 田川 寛之(福島学院大学)● 株式会社新福島産業創生プロデュース
活動経緯(概要)	<ul style="list-style-type: none">● 2023年12月、WGメンバーによる会合(対面)を福島県浪江町にて実施。● 2022年5月、2023年8月、2024年9月岩瀬農業高校を訪問、出前授業を実施。● 2024年10月に南会津高校を訪問、出前授業を実施。● 2025年8月に福島県農業総合センター会津地域研究所を訪問、生分解性農業用資材の活用に関する意見交換を実施。● 2025年11月に福島県農業総合センター浜地域農業再生研究センターを訪問、生分解性農業用資材の活用に関する意見交換を実施。

脱炭素×農業WGの活動について(2/2)

活動結果

【総括】

- WG活動を通じて、生分解性農業用資材の活用に関する企業間、福島県農業センターとの連携を模索した。

【課題】

- 生分解性の農業用資材の積極的な活用については、情報が不足しており、十分に浸透していない。
- 生分解性農業用資材の脱炭素化効果、資源循環への寄与、省力化効果等を集計し、周知方法について再検討する必要がある。

【対応策(案)】

- 生分解性の農業用資材については、汎用の農業用資材との価格差が顕著としてあるため、値差補填などの支援策について省庁へのヒアリングも検討する。
- 離農が進む現状の資料をとりまとめ、営農再開希望者へ生分解性農業用資材の活用をへ提案し、フィードバックを受ける。

今後の予定

【次年度(2026年度)の目標・方向性・将来像】

- 脱炭素×復興まちづくりプラットフォームやWGの枠組みを活用し、環境省とも連携して勉強会を実施することでWGメンバーへの情報提供を継続する。脱炭素×農業分野では、事業者の脱炭素技術を整理・共有し、復興・まちづくりへの貢献についてもさらなる情報収集を行う。

【2030年度の目標・方向性・将来像】

- 脱炭素×農業分野では、今後、浜通り12市町村の営農再開を阻害する課題解決の方法の一つとして、生分解性農業用資材の省力化効果を提案し、併せて脱炭素効果を試算し公表することで、積極的な活用の機会を模索する。
- まちづくり分野では、検討した解決策について自治体・事業者へヒアリングを実施し、マッチングや受け入れ可能性、地域課題との同時解決や観光分野とのコラボなど、コベネフィットの検討結果を取りまとめる。

【脱炭素×農業WG】

参加団体等による
脱炭素製品・サービス提案一覧

提案一覧

※企業名50音順

企業名	所在地	提案概要	詳細
応用地質株式会社	福島県福島市 東京都 他	地質学を応用して社会に役立てようと1957年に創業しました。「防災・インフラ」や「環境・エネルギー」に関する事業を展開しています。2011年の東日本大震災後、継続して福島の震災復興事業に携わっています。現在は、脱炭素、まちづくり、に関する業務も実施し、洋上風力、CCS、地中熱、地熱、脱炭素計画等の業務も積極的に行っています。 貢献局面:①炭素吸収、③設計建設、④利用、⑤資源循環、⑥その他(環境意識啓発、エコドライブ) 貢献内容:省エネ、地域貢献、環境啓発、資源循環	—
株式会社ちーの	福島県浪江町 福島県飯館村	後継者不在/耕作放棄/生産性・収益性の低さ・・・課題と問題しかない農業に対して持続的な農業事業を推進するために利益追求型農業を展開し、農業を通じて社会課題(環境問題)を解決することを目的としており、環境配慮型農業として、節水栽培型技術(直播)、ドローンによる播種、農機具の自動運転化、衛星データ等のDX推進、バイオスティミュラント資材の導入、生分解性高分子ポリマーによる暑さ対策等、新しい農業の展開を行っている。	P5
フタバ産業株式会社	愛知県岡崎市	1945年創業。「自動車部品事業」と「外販設備事業」を中心に設計・開発～生産までお客様のニーズに合わせた製品を提供。2017年には自動車部品事業で培った固有技術を活用し農業事業を開始。農業ハウス栽培用に排気ガスのCO2を回収し作物の光合成促進のために施用するシステムを開発し生産しています。当社は「環境」「安心」「豊かな生活」をキーワードに脱炭素社会を目指し誰もが暮らしやすい社会に貢献し続けてまいります。	P6
三菱ケミカル株式会社	東京都千代田区	未来の地球を、化学の力でもっとやさしく。 私たちは、資源とエネルギーを無駄なく使い、再生可能な資源を最大限に活かすことで、環境と社会の持続可能性を高める革新に挑み続けています。その一歩として、プラスチックの原料を石油からバイオマスへ。 さらに、自然に還る“生分解性プラスチック”の活用を進めることで、使用後は土中の微生物が水と二酸化炭素へと分解。回収・洗浄の手間を削減し、農林業の省力化にも新しい価値を生み出します。 持続可能な社会を、素材の力で創っていく。 私たちは、脱炭素×復興まちづくりに貢献していきます。	P7

【株式会社ちーの】福島から、未来を耕す挑戦（環境配慮型農業の社会的基幹産業化）

◆持続的な農業事業を展開するために利益追求型農業を推進し、農業を通じて社会課題(環境問題)を解決する。

【従来の田植技術のみならず】※水を張るとメタンガスが排出、Co2の25倍。

▼湛水直播鉄まきちゃん



▼湛水直播ドローン



▼節水型乾田直播



【農業DX化】

▼K-SAS & xarvio®



【環境エビデンス】

▼Jクレジット/NTTドコモビジネス



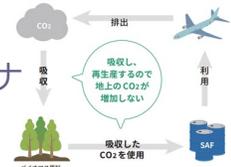
【バイオスティミュラント資材の活用】

環境配慮型稲作及び化学農薬、化学肥料の使用量削減
(みどりの食料システム戦略)



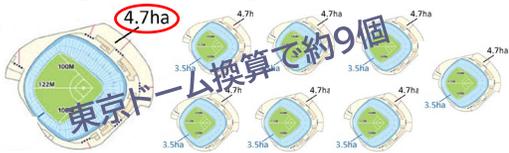
【お米の裏作でカメリナの栽培を実施】

SAF(持続可能な航空燃料)原料として供給、手間の掛からないアブラナ科の生産で収益化



2025年度実績

- 作付け面積:約43ha(433反)
- お米の収量:約210トン
- Jクレジット成果(中干し期間の延長、43ha相当):16.0t-CO2(≒@120万円)



● 衛星データからドローンへ可変施肥の導入



- 肥料コスト 25%減
- 収益 115%増



移植水稻比較:労力1/3減
製造原価:30%以下

【フタバ産業株式会社】アグリーフ CO₂システム

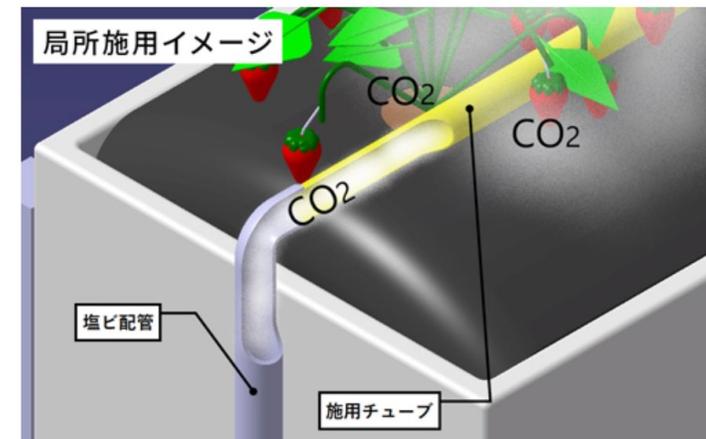
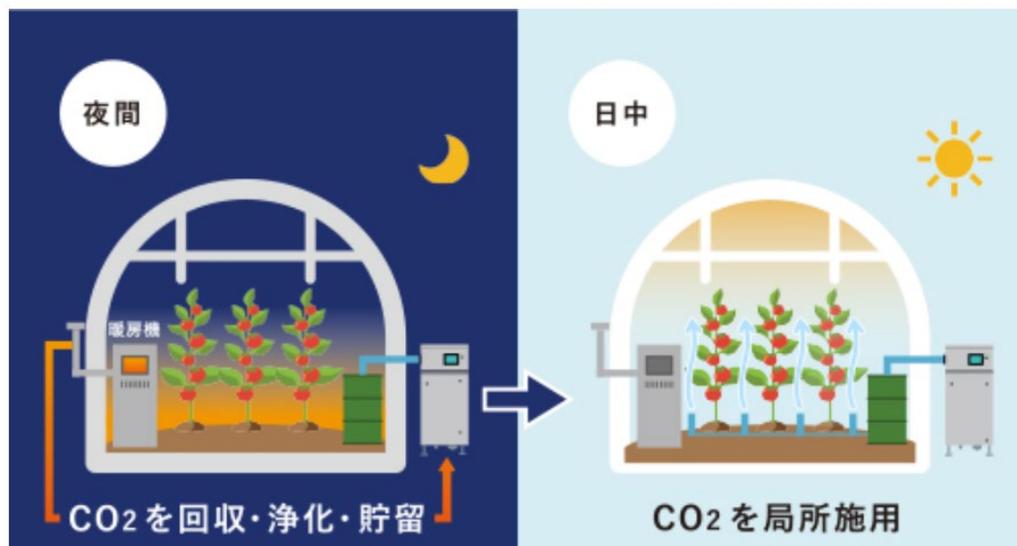


◆CO₂の再利用で、作物の収量と品質向上を目指す。CO₂削減にも貢献！

貢献分野：省エネ/環境啓発/資源循環

「アグリーフ CO₂システム」は、夜間、農業ハウスで使われる暖房機の排気ガスに含まれるCO₂のみをタンクに貯留し、日中、作物の光合成が活発な時間に貯めたCO₂を作物に局所施用するシステムです。

これまで捨てていたCO₂をリサイクルするため、施用にかかる燃料代は不要です。



【三菱ケミカル株式会社】生分解性プラスチックを活用した農林業用資材

◆新しい素材と技術で農林業における脱炭素を推進し、営農再開を後押しし、浜通り12市町村の復興に貢献します

